

総論

満点	120点	目標得点	85点	試験時間	120分		
大問数	5	小問数	51	偏差値	文I:74 文II:73 文III:72 理I・理II:71 理III:75		
【解答形式】		選択式	25/51問	記述式	24/51問	論述式	2/51問
【問題難易度】		C	2/51問	B	13/51問	A	36/51問
※問題難易度：C難問、B合否を分ける問題、A正答すべき問題、を示す							

Topics

- 1：読解、リスニング、英作文、文法・語法とあらゆる分野から出題される。
- 2：全体の英文の量が多いので、いかに設問ごとの情報処理をおこない、問題を解き終えるかが鍵。
- 3：出題形式は一見したところ、毎年同じように見えるが、内容は多様性に富む。

こんな力が求められる！

120分という時間内で、途中30分間リスニングが入る。英文を読んでいる途中にリスニングに突入してしまったり、リスニング終了後再び初めから英文を読み直さなくてはいけなくなり、時間の浪費につながる。要するに問題ごとに時間配分を行い、的確な情報処理を行う能力が問われている。

設問ごとにみると、受験生が手も足も出ないという難問、奇問は出題されていない。単語レベルも決して高くはない。ただ出題傾向が多様で何が出題されてもおかしくないという特徴がある。出題形式の上では今年度も2(B)が与えられた語の派生語を問う問題が出て、昨年度の形式とは変化が見られる。また5(10)も同様である。しかし両方のタイプの問題とも東京大学の過去問を徹底研究していれば、似たような、もしくは同じタイプの問題は出題されており、その意味においても過去問の研究は必要である。

特徴のないのも東京大学の問題の特徴でもあるが、①問題文内容把握、②自分の理解したことを的確に相手に伝える日本語の表現力、③基本的な文法力、この3点は必須。特に①に関しては短時間で情報処理を行うことが要求されている。常に英文の論理を追い、論点を的確に把握することが重要である。②は1の要約、4の下線部訳でその能力が問われている。

得点源にしたいのが英作文とリスニングである。英作文は易化したのが、確実に得点につなげるための文法力、表現力が必要とされる。③の文法力を欠落した英文を書いても減点されてしまうので、減点されない正確な英文を書くことを常に心掛ける必要がある。リスニングは努力がそのまま点数に反映され報われるものである。「音-Dock」や市販の参考書を使い練習することが必要であるが、音読を繰り返すことで話すことが出来る速度を速めることも重要で、それが聞くことが出来る英文の速度を速める得策でもある。

全体を通して、大まかに全体像を捉えることが必要である一方で、表現する際の精密さも是非日ごろの学習において意識する必要がある。

### 【1】

予想配点	22/120 点	時間配分の目安	30/120 分 ((A)15分 (B)15分)
出題内容	読解問題 〔Word数〕(A)346 words (B)316 words (本文) + 399 words (選択肢) 〔『でか単』『完熟』レベル〕『でか単』『完熟』ともに PART2, 3 〔長文テーマ〕(A)SFと科学の相互関係 (B)宇宙資源の獲得と利用		
出題形式	(A)和文要約 (B)読解総合(段落整序など)		
小問別難易度	※問題難易度：C難問、B可否を分ける問題、A正答すべき問題、を示す (A) B (B) (1)A (2)A (3)C (4)B		
お茶ゼミカリキュラム・テキストとの関連	OS英語クラスのテキストなどで和文要約の技術を鍛えておくことが必須である		

#### ●本大問の特徴・概要

(A)

今年の和文要約問題における最大の特徴は、「挙げられた例にも触れながら」という条件が初めてつけられたことである。さらに字数制限は、多めの90~100字になった。例示をしながら、10字以内の誤差しか許されない答案を時間内に作成することは容易ではない。英語力だけでなく、国語力も試される厳しい関門である。

(B)

(A)に引き続き宇宙をめぐる話題となった。それぞれを別物と考えて取り組むのは当然のことだが、段落ごとに内容を整理して読み進める必要がある点では一貫している。日頃の演習でも、各段落のコンステレーション(布置)に細心の注意を払うことが大切である。いわゆるパラグラフフリーディングの方法に通じておくこともさることながら、段落整序の問題においてダミーの段落を見抜くためには、段落相互の関係をより具体的に理解できる読解力が必要だ。

#### ●注目すべき小問

(A)

例を挙げるといふ異例の条件があったが、「ブラックホール」、「タイムトラベル(もしくはワープ)」といった用語を、それぞれ科学からSFへ(第2段落)、SFから科学へ(第3段落と第4段落)といった相互関係のベクトルに織り込んだ答案を作ることになる。

(B)

- 一文を第1段落から取り除く。(c)は(b)に出てくる小惑星群の説明をしているが、資源の獲得や利用といった大意には関係していない。
- 一文を第2段落に組み入れる。水、酸素、水素ではない「もう一つの」資源を話題にしていると考えれば、答えを見つけるのは難しくない。
- ダミーの段落をはじき出して、段落を整序する問題は以前から出題されてきた。yet, but, for example...といったシグナルワードを手がかりに第2段落と最終第7段落の間の段落構成を組み立てるのだが、ほぼ前から数珠つなぎにしていけることができる。ダミーの段落には他の段落と関係するシグナルワードはなく、内容的にも他との緊密なつながりがない。
- 「文章全体との関係」を考えれば、コストや採掘等の方法ではなく、第一文でも最後の文でも述べられているように、「宇宙資源の獲得と利用は道半ばである」ということが要点である。

# Benesse® お茶の水ゼミナール

【2】

予想配点	22/120 点	時間配分の目安	20/120 分
出題内容	(A)英作文問題 (B)文法・語彙問題 『でか単』『完熟』レベル 『でか単』『完熟』ともにPART2		
出題形式	(A)自由英作文 (B)空所補充		
小問別難易度	※問題難易度：C難問、B合否を分ける問題、A正答すべき問題、を示す (A) B (B) (1)A (2)A (3)A (4)A (5)A (6)A (7)A (8)A		
お茶ゼミカリキュラム・テキストとの関連	(A)の自由英作文については、スポット講座のEnglish Writingで必要十分な対策がなされる。(B)の空所補充問題は、OS英語クラスはもちろん、Advanced英語クラスの通常教材を通して、満点が可能。		

## ●本大問の特徴・概要

2008年まで、大問2は(A)・(B)ともに自由英作文形式の出題であり、一昨年は15～20語が2題と50～60語が1題と、合計100語程度の英作文が求められていた。ところが、昨年、(B)は空所補充形式の問題となり、いわゆる英作文と呼べる問題は、(A)の1題のみとなった。本年もこの流れを踏襲しているが、昨年の(B)は2～5語の空所補充であったのに対し、本年は1語のみであり、なおかつ語形変化する前の形がすでに与えられているなど、出題形式の面のみから見ても大幅に易化している。昨年に引き続き大問2は易化傾向が続いているといえるだろう。

## ●注目すべき小問

(A)

昨年は「読書が、現代を生きていくのに必要な知識を得るのに役に立つか」という英語の問いに対して、肯定・否定双方の見解をそれぞれ20～30語で解答することが求められていたが、本年は「全世界の言語が単一であれば社会はどのようになっているか」という日本語の問いに対して、50～60語の解答が求められている。どちらも自分の意見・考えを書くタイプの自由英作文であるが、昨年の問題に比べると(意見を2通り書く必要がないという点でも)書きやすいテーマである上、書き出しも与えられているなど、同じように自由英作文を課す他の国立大学の入試問題と比べてもだいぶ平易であるといえる。記述問題である以上、受験生間で細かな得点差がつくことはある程度予想されるが、合格のためにはここで高得点が必要なことはいうまでもない。

(B)

文意に合うように与えられた語の形を変えて空所を埋める、という問題であるが、親切丁寧なことに例が2つも与えられている。1つは動詞(publish)から名詞(publications)への変化、もう1つは名詞(friend)から否定の接頭辞をつけた上で形容詞化したもの(unfriendly)。この2つの例、とくに2つ目の例から、否定の意味にしたり接頭辞をつけたりすることも許容されるということを抑えておけば、何らの困難も伴わない問題である。また、与えられている語も、weak, agree, member, depend, special, combine, effect, criticと難しいものではなく、とりわけ前半にあげた5つは中学校レベルの英単語にすぎない。普段から品詞を意識し、英語に多く触れてきた受験生にとっては造作もない問題ではないだろうか。

## 【3】

予想配点	32/120 点	時間配分の目安	30/120 分
出題内容	長文&会話文問題 (Listening&Dictation) [Word 数] (A)480 words (B)694 words (C)219 words [『でか単』『完熟』レベル] 『でか単』『完熟』ともに PART0, 1 [長文テーマ] (A)図書館、book の定義 (B)学生の会話と同窓会でのスピーチ (C)ロール・モデルについて		
出題形式	(A)(B)選択式 (C)ディクテーション		
小問別難易度	※問題難易度：C 難問、B 合否を分ける問題、A 正答すべき問題、を示す (A) (1) A (2) A (3) B (4) B (5) A (B) (1) A (2) A (3) A (4) B (5) A (C) (1) A (2) B (3) A (4) B (5) A (6) A		
お茶ゼミカリキュラム・テキストとの関連	各学年の O S 東大英語では授業内で毎週リスニングの問題、ディクテーションを扱う。		

### ●本大問の特徴・概要

例年通り、試験が始まってから45分後から30分間放送されるリスニング問題である。長文を読んでいる途中で放送が始まってしまう、などということのないよう時間配分には十分注意したい。(A) (B) ともに、解答の根拠となる箇所は、原則として放送では設問の順番通りに出てくる。前もって選択肢には必ずさっと目を通しておき、放送中にはテンポよく取捨選択していくことが必須である。

難易度は決して難しいものではないが、どちらかというとも30分という長さ根負けする受験生が多いようである。普段から10分ほどの長さのリスニングには慣れておきたい。

### ●注目すべき小問

設問 (A)

- (3) 本設問は、スクリプトのフレーズほぼそのままが選択肢となっていた (1) (2) と違い、放送中の語句をパラフレーズしたものが選択肢となっているためやや答えにくい。news → current events や passed on folktales from generation to generation → retold stories that they had heard を読み変えることができ初めて正解の選択肢を導き出せる。
- (4) Internet の特徴として選択肢アやエにあたると思われるような描写は含まれているが、Internet を library と見なしている理由ではないことに注意。正答のイにたどり着くには、話者の定義による“books”が何なのか (小問2で聞かれている) を理解していることが不可欠。

設問 (B)

- (1) (4) 「いずれも一致しない」を選ぶ問題だが、前もって選択肢に目を通しておけば問題ない。
- (2) 卒業直前には、Jim は世界を旅行した後に職探しをしようと言っていたが、30年後の同窓会の Shota の発言によると、結局日本に居座ってしまった、とある。この Shota の発言を聞かないと、問題文の“Before graduation,”の意味が分からなかったかもしれない。しかし全スクリプトを聞いたのちの2回目の放送で確信が持てるであろう。

設問 (C)

- (2) (4) 聞き取りにくい of や whose を、文法的観点から必要と判断し入れられたかがポイント。ディクテーションは、聞こえたフレーズが文法的に整合性があるかどうかを必ず確認する。

## 【4】

<b>予想配点</b> 20/120 点 ((A)各1点 (B)各5点)	<b>時間配分の目安</b> 20/120 分 ((A)5分 (B)15分)
<b>出題内容</b> (A)文法・語法問題 (B)読解問題 [Word数] (A)139 words (B)275 words [『でか単』『完熟』レベル] [『でか単』『完熟』ともにPART2 までマスターしていれば問題ない]	
<b>出題形式</b> (A)正誤、不適切語指摘 (B)和訳	
<b>小問別難易度</b> ※問題難易度：C難問、B合否を分ける問題、A正答すべき問題、を示す (A) (1) B (2) C (3) B (4) A (5) B (B) (1) A (2) B (3) A	
<b>お茶ゼミカリキュラム・テキストとの関連</b> OS 東大英語の和訳演習を繰り返していけば、下線部訳では満点を目標とするはず。 文法問題に関しては、形が明確には決まっていない。年によっては整序の問題の出題も考えられる。 どのような問題が出題されようとも平常授業のカリキュラムを確実に消化していけば、合格点は必ず取れるはず。	

### ●本大問の特徴・概要

(A) 短文を読みながら不要な語を指摘する問題

出題の傾向としては昨年を踏襲しているが、問題のレベルは確実に難化している。1題そのものの英文が短いために、しっかりと読めば誤りの箇所を発見できると思い、その思いが強すぎるためにいたずらにこの問題で時間を費やす恐れがある。しかし全体の中で考えた場合いたずらにこの問題で時間を浪費しないことが重要である。

(B)

全体として難解な単語や構造は出てきていない。ただあくまで東京大学は和訳を要求しているのだから、翻訳のように構造等を無視した訳は減点を覚悟すべきである。この点においても精密さ、緻密さが必要となるであろう。

### ●注目すべき小問

(A) - (2)

文章の内容を理解することがまず重要である。ただ **one of which** という形が存在するためには先行詞が複数形でなくてはおかしいのではないか、という点に気が付いたかで正解に辿り着けるかが決まると思われる。

**both that something is and what it is** という部分は **recognizing** の目的語として機能している。「何かが存在していて、それが何かということ認識すること」という意味である。

(A) - (4) (5)

両方の問題とも文構造を的確に捉えることさえ出来れば、前置詞の後ろに節がくるとはおかしい、ということ問う同じタイプの問題である。

後ろにつながり得るものがある場合は、どのような形のものがくるのか？ そもそも何かをつなげて考えることがおかしいのか、そのあたりの感覚を研ぎ澄ませる必要が今後も重要になるであろう。

(B)

全体に構造をとることも難解なものではない。しかし(2)の関係代名詞の訳出の処理において、わかっていることをいかに相手に伝えることが出来るか、という表現力で差がつく問題である。

## 【5】

<b>予想配点</b>	24/120 点 (1)～(3)、(5)～(9)各2点 (4)4点 (10)a～d 各1点	<b>時間配分の目安</b>	20/120 分
<b>出題内容</b>	読解問題 〔Word 数〕 976 words 〔『でか単』『完熟』レベル〕 『でか単』『完熟』ともに PART2 まで 〔長文テーマ〕 祖国から逃亡した男の伝記		
<b>出題形式</b>	(1) 適語補充 (2) 文脈上同義語言換(英語) (3) 文脈上同義語言換(日本語) (4) 下線部訳 (5) 文脈理解 (6) 文脈上同義語言換(英語) (7) 整序 (8) 適語補充 (9) 適語補充 (10) 適語補充		
<b>小問別難易度</b>	※問題難易度：C 難問、B 合否を分ける問題、A 正答すべき問題、を示す (1) A (2) A (3) A (4) A (5) A (6) A (7) A (8) A (9) B (10-a) A (10-b) A (10-c) A (10-d) A		
<b>お茶ゼミカリキュラム・テキストとの関連</b>	例年通りであるが、この問題は東京大学の問題において高得点を狙うべき、また狙わなくてはいけない一言で言ってしまえば易しい問題である。 お茶ゼミのカリキュラムで言えば、高2 OS 英語においても十分に高得点をあげる学力を培うことは可能である。高3 OS 東大英語は言うに及ばず、Advanced 国立英語でもこの問題に関しては十二分である。 単語、熟語レベルにおいても、『でか単』『完熟』の PART1 でも対応が出来るはずである。		

### ●本大問の特徴・概要

昨年度は解説文が出題されたが、今年度は小説文とはいえないが、比較的軽く読める伝記文へと変化をした。

文法的な細かな知識よりは、全体の把握が出来ていれば状況を的確に判断できたはずである。

読みやすい文であるので、本問に対して時間配分を誤って時間がなく中途半端な読解で点数を落とさないようにすることが重要である。

これまでも触れたように、東京大学の問題は難問・奇問は用意されていないが、多様な問題があるために、時間配分・計画性を緻密に行っていないと、取れる問題で時間がなくなってしまうという状況が起ることが多い。そのようなことがない様に設問ごとに対しての時間配分等しっかりと計画性を持ち、総合の点数で勝負することが必要となる。

### ●注目すべき小問

(3) mean = 「意味する」という訳語で固まってしまっている受験生に対して「エ」という選択肢が用意されている。mean は「意図する」という訳語を基本として mean to do 「～するつもりだ」という用法を持っていけば簡単な問題であろう。このように不定詞が後半につながることもある、という意識があれば、to だけで終わっていてもその背後に何かしら動詞要素が来るはずだという予測が成り立つはずである。

これも日常の学習において、ただ意味を覚えるということにとどまらず、使い方という点まで意識していることが重要であるという例であろう。

これ以外の問題においても全体の内容を把握することに努めれば、その状況が見えてきたはずである。

【1】の要約や、【4】の下線部訳は全体を捉えた上で、さらに細部にまで配慮をして精密さを要求される問題であるが、本問の場合は自分だけの理解で問題を解ける。

最後に東京大学は問題ごとに処理能力の精度、緻密さを変化させながら対応していくことが要求されることを認識することが重要である。